

六條學
報改題

佛敎學論叢

第百四
十二號

大正二年月發行

存覺上人研究號

口繪

目次

本欄

肖像

常樂台藏

六要鈔古本

本派本願寺藏

存覺上人とその時代

三浦周行

存覺上人の修學

禱祐

存覺上人の教義

真原隆

存覺上人の神祇觀

杉紫朗

本典流傳史上に於ける存覺上人の地位

中井立道

常樂台主老納一期記の研究

妻木直良

存覺上人袖日記の研究

鷲尾教導

雜纂

存覺上人年譜

著書解題

識語集

舊蹟寺院

菊版 頁數約二百頁 定價金壹圓

番七四八一ニ大振社所行發

市都京
條六西

山西義教研究

第一年第一卷

大正元年二月發行

▲ 内容要目 ▼

繪

□淨橋寺梵鐘之銘(派祖西山國師真蹟)

本

欄

□正因正行の論

三浦貫道
井ノ口泰溫

□日本淨土教義史

参考欄

□淨土安心抄を讀む

行

西山疏抄尋覽

□觀經疏大意

西山善峯寺證空記

▲規定▼

本會は社會の所

有方面よりの入會を歡迎す、

◆入會せんと欲する人は會費

(年額四圓五拾錢)を添へて發

行所へ申込のこと

◆會員は雜誌の配付を受け並

に論文を提出し、諸種の會合

に出席して、質疑をなすこと

を得

◆一部購讀希望者の誌代は隨

月發行す

申し受候

所	行	發
		京都府乙訓郡
		乙訓村字栗生
	西山專門學校内	
西山教義研究會		

据替大阪五九七一〇番

日本文化の搖藍系體の天台

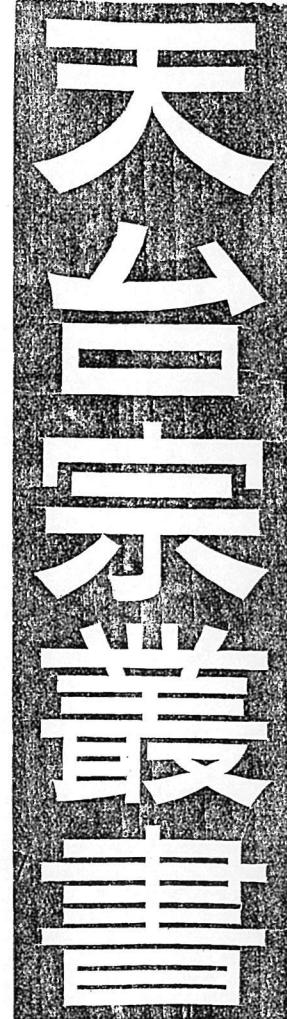
圓戒膚談

新刊二卷

顯道敬光述
園城寺

著者は無川末期に於ける天台宗隨一の學匠であつて、特に圓頓戒に卓拔の議見を所有せられた方である。當時山家大師流の天台が、支那四明天台の爲に壓倒せられ、從つて精神的大乘圓頓の戒法は光を失して形式的律法の擗頭して居つた頃である。然るに著者斷乎とて山家の復興の大戒の振作を圖られた。然かも師の爛熟せる圓戒思想は、此の膚談に盡され得をること云つても過言ではない。國民思想史と密接なる關係を有する、圓頓戒を知らんと欲するものは、必ず座右に一本を備へねばならない。切に此の書を江湖に薦むる次第である。

【附錄】圓戒膚談標條……末廣昭啓
【書費】金參圓五百錢 送科共



- ▲年四回發行▼
- ▲洋裝三百頁▼
- ▲會員は端書にて申込まれたし▼
- ▲會員にのみ實費にて頒布す▼

(1) 既刊、安然撰集一
教時問答

五大院安然述
實費金參圓

▲續刊豫定書▼
一安然撰集第二
一普普通廣釋
一一教時諍論
一一即身成佛義(密)
一瑜祇經疏

安然述

一安然撰集第三
一善提心義鈔

安然述

一慈覺大師撰集第一
一顯揚大戒論

圓仁述

一天台直雜
順燈述

順燈述

一宗大師口傳抄
等海述

一宗祖述末疏錄
本會編

東京帝國大學司書官
兼教授 文學博士

東京帝國大學司書

和田萬吉序

藤原猶雪著

▲菊版布裝天金美本

△寫眞版十六枚插入

▲定價 金貳圓也

△着金頤限特價 一圓半

(錢五十料送)

親鸞聖人真像の研究

- □ 本書は親鸞聖人門下の地理的分布を權説して其郷土史料より
- 聖人の影像並に墓標の原型を考察せるものである――

發行所

東京市神田區
錦町一の十九

振替口座番號
東京三三六一

森出版部

電話 神田二二九二